（別紙4）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4390800102		
法人名	社会福祉法人　菊寿会		
事業所名	グループホーム　明日葉		
所在地	熊本県　山鹿市　菊鹿町　長　529番地		
自己評価作成日	平成29年11月9日	評価結果市町村受理日	平成30年２月９日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成29年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑豊かな山間の自然あふれる中、木造平屋建ての環境に優しい「地中熱」を取り入れた住まいである。また、建物の周りには、栗園があり自然を満喫できる環境である。地域や地域住民との交流も定着しており、地域の中で住み慣れた生活を送られている。利用者の御家族とも信頼関係も深まり、ご利用者と一緒に楽しまれるような企画を実施している。御利用者が自然の環境の中で、ゆったりと楽しく暮らして頂けるような雰囲気づくりを心掛けて支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

特別養護老人ホーム等福祉が集中したスケールメリットや、声をれまでの積み重ねと医療との連携は入居者や家族に安心感となり、居室を中心とした生活にある入居者も安心した日常である。また、地域資源を生かした外出は“ともに輝いて暮らしたい”とする理念が表出し、実に生き生きとした生活ぶりである。入居者がこの地区の長者が番付に名を連ねる等地域と共にあるホームである。地域の高齢者も誕生会に呼びかけるなど相互の関係性も築き上げている。また、入居者同士の労いのある生活や思いやりのある日常に、職員が暮らしの場所として寄り添い、自然体での関わりの成果と言える。自然環境を生かしながら、これまでの歩みが家族等の信頼感となっていることがアンケート等にも表れており、家族の声も大切にしたホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名:グループホーム明日葉

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、母体の理念と共に明日葉ホールに掲示している。また、開設当時より、スタッフのロッカーに貼り、この理念に基づきそれに沿った支援を行っている。	ホームの理念は利用者の視点としての"自分らしく生きたい"を、支援者としては"あなたの笑顔が私の幸せ"に置き、掲示により意識づけとしている。また、毎月のスタッフ会議や掲げた目標設定時には進ちょく状況や最終評価により新たな目標を全員で立てている。新規入職者にはオリエンテーションの中で、また年度初めには管理者より理念をもとに訓話されている。地域の中で共に輝いて暮らしたいとするホームでの生活は、実に生き生きとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の収穫祭に手作りおやつを出品し、地域に活用して頂いている。交流会は、施設の都合により9月までできなかったが、9月の誕生会に合わせ行うことができた。	この地区の長者番付けに名を連ねる等この地域の住民、区の一員として入居者も認められ、入居者の出身地の地域サロンや敬老会（農業地域という地域性から3月に開催）、収穫祭等に出かける等地区の団結力がホームとの接点として生かされたホームである。地区の美化作業への参加や、誕生会には地域の高齢者も呼びかける等相互交流に積極的に取り組んでいる。消防団の夜警も回ってくる等地域との関係が深いホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年は、出来なかった。3月までには、近隣地域に出向き認知症の症状や対応について発信していきたいと考えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や助言を頂いたら、スタッフ会議等で報告し、利用者が過ごし易い環境に繋げている。地域の方の意見を多く聞き入れる為に今年は、新しい評議員様や法人理事様にも参加頂いている。	開運営推進会議は家族代表や区長、民生委員（会長の他全民生員が輪番で参加）、行政・社協・認知症サポーターや駐在所の他、新たに評議員や法人の理事等をメンバーとして2ヶ月毎に開催している。外部評価での目標等を開示しながらの質疑応答や、行事や研修や今後の活動等を報告した後、活発な意見交換が行われている。参加委員からのアドバイスによりサービスに反映させている。	参加者からの意見を具体的な形とする為、ホーム便り等可視化しながら情報を開示することを検討いただきたい。より分かりやすく報告することで、参加者からの意見も更に出されるものと大いに期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市開催の説明会に参加して、市の計画や意見を聞いている。ケアプランの提出により助言を頂いている。また、運営推進会議にも毎回出席頂いている。	運営推進会議時の情報発信の他、行政による説明会への参加やケアプラン提出に出向きアドバイスを得ている。また、運営推進会議の議事録作成に対してのアドバイス等もあり、ホームもSOSネットワーク訓練に参加する等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設外研修に参加の機会はなかったが、毎月母体での身体拘束廃止検討会にて「絶対拘束はしない」を各部署と確認している。特に、言葉による抑制には、スタッフ全員日々注意をはらっている。	母体法人での身体拘束廃止検討会での事例検討等を行うとともに拘束は行わないことと認識を強化させている。また、低床ベッドや畳での生活等拘束をしないための工夫を検討し、職員自身が環境の一つとして捉え、職員の言葉使いはお互いが注意喚起し、入居者への尊厳としても子どものように扱わないことや声掛けに注意を払っている。入居者も職員の表情や目線などに反応もおられ、特に注意することを指導している。更には、否定の無いケアを実践していく意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフのストレスにより、利用者への悪影響が起こらないように、スタッフの健康状態や悩み事がないかなど心のケアを心がけている。また、ストレスケアの全体研修を法人としても取り組んでいる。年に1回、ストレスチェックを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年は、研修の機会はなかったが、今後は積極的に参加したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と契約書について説明を行い質問や疑問がないか確認している。納得された事を確認して同意をお願いしている。入居時、「リスク説明書」と「急変時及び重度化時の対応における事前意志確認書」の説明を行い納得された事を確認して同意をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会の折りにご家族の意向をお尋ねし、ケアの在り方などの説明を行っている。7月の家族会が本年もできなかった。9月17日の敬老式典の際、資料を配り個別にお話を伺う予定が、台風接近により敬老式典が中止になった為、12月のクリスマス忘年会でと考えている。	家族に毎月便りと手紙により情報を発信し、面会時日頃の様子の説明と共に意見等を聞き取りしている。。また、アンケート調査や家族会、運営推進会議等の家族の意見や要望等を重要な事案として捉えている。入居者の声にも耳を傾けている。苦情相談第三者委員を敬老式典の中で紹介する等ホーム内外の苦情相談部署・担当者を明確に示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフ会議で、意見や提案を聞いているが、緊急な場合はミニ会議を行い申し送りノートや伝言メモにより全スタッフに報告し実践に活かしている。	スタッフ会議（月１回）や日常の中での意見交換を行いながら、サービス向上に努めている。職員の急な休みへのローテーションの調整に職員同士の良好な関係性が表れ、新たな職員を迎え全員で業務を見直している。スタッフ会議での諸機運の意見を集約し、幹部会（部課長での話し合い）で重要案件は決定する体制である。半期毎の個人面談時にも職員の意見や提案等を聞き取りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れており、年に2回（上期、下期）個別面接を行い、本人の意欲（目標）の達成感等を聞いたり助言を行っている。また、業務がスムーズにいくように就業時間の見直しを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体施設の全体研修は、毎月参加している。外部研修は、グループホームの勉強会に参加しスタッフのスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山鹿菊池ブロックグループホーム研修会及び会議に参加し、スタッフのスキルアップに繋げている。（年6回）		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規利用者を受け入れる場合はご家族、ケアマネージャー、利用されていたサービス事業所より情報を得る事で、入所時より不安なく生活して頂けるようにケアの統一を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査時に困っておられる事や不安な事を聞いて、できるだけ解消できるように支援の提案を行い信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時の段階で本人及びご家族が一番必要としている事をスタッフが共有しながら支援し、必要なら以前利用されていたデイサービスを訪問したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力や身体機能に応じ、洗濯物たたみ、食器　お盆拭き、野菜の下処理などできる事をして頂く事により共同生活の一員として支援し合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、帰省の協力をして頂きながら、ご家族との絆を保ちつつ、全員での外出や行事の時は、ご家族にも声掛けして参加協力をお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2ヶ月に1回、近隣のサロンに参加している。定期的とはいかないが、出身地や馴染みの地域への訪問やドライブに出かける事により、関係の継続ができている。	地域のサロンや敬老会等に参加することで知人や教え子と再会を果たす等これまでの関係性を継続して支援している。かかりつけ医を継続し受診後は家族との外食を楽しんだり、入居者が植えられた野菜を家族が持参されるケース、地域の中へのドライブ等入居者のこれまでのバックボーンを捉えながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う仲間作りもできている反面、トラブルが起こることもある。その為に個別ケアを重視して、ご本人のやりたい事を見出したり希望される所に出かけたり、全員で楽しめるゲームなどを行っている。また、ご家族の協力を得て外出での気分転換を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退去されてもご家族と連絡をとり、利用者の面会を行っている。また、ご家族より相談があれば相談や支援を行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメントwo					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症状が少しずつ進行し、思いや希望を伝えることが難しい利用者が増えておられる。その為、日頃から関わりを多く持つよう心掛け、日々の暮らしの様子やちょっとした言葉からくみ取れる思いを把握し、プランに反映するよう努力している。	職員は入居者と良く会話を交わし、その中から思い等を把握しようと努力しているが、認知症状の進行も見られ、意思疎通の難しさから、職員からけーむや外出等に誘い、表情や行動を推察したり、昔話などから思いを引き出し、ケアに反映させている。また、笑顔をバロメーターとして捉えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及びご家族に聞いたり、担当ケアマネージャーに聞いて情報収集を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者と同じ空間で時間を共に過ごし、観察や会話を多く持つ事で状況を把握している。また、記録やスタッフとの情報交換の中から得る情報も多くある。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでは、全員のモニタリングを行っている。また、介護計画書が現場で有効に活用されるよう、計画書は原案の段階でカンファレンスを行いチームで検討し、必要時は修正を行っている。	本人・家族の生活に対する意向等を把握し、毎月ケース検討会議を行い、課題を精査している。家族の訪問時を担当者会議として生活の様子や心身の状態についてケアプランを提示しながら話し合いを行い、家族の同意を得ている。日々のケア記録にプランを綴じ込み、ケアに反映させると共に次回のプラン見直しに反映させており、家族の思いや職員の観察が生かされたプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア記録に生活の記録を行い、日勤者夜勤者間の申し送り簿により情報交換を行っている。また、繋がると思われることは、申し送り簿ノートに記入したり写真をケア日誌に載せる事で事故防止に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院中の利用者への面会、そのご家族との連絡や要望等で施設が出来る範囲であれば柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力を得て、地域に出かけ自然を満喫している。近隣地域のサロンへ参加し、楽しい時間を過ごして頂いている。地域の方と声掛けあう事で、暮らしの豊かさに繋がるような支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の主治医を重視し、ご家族の協力を得ながら、受診を行っている。また、スタッフが医療機関へ健康状態や日々の暮らしについて情報を提供している。受診が困難な場合は、訪問診療を依頼して健康管理に努めている。	協力医療機関をもともとかかりつけ医とされていた方が殆どであり、訪問診療や受診の他、他の医療機関へ家族による受診など希望に応じた医療支援が行われている。歯科については協力医による往診が行われている。職員はバイタルチェックや日頃の関りの中で、気になることがあれば主治医に相談を行い、指示を仰いでいる。食事や休息、運動などホームに出来ることで健康を支える他、地域で取り組んでいる感染症対策として緑茶粉を飲料などに取り入れている。健康状態については、面会時や電話など家族の状況に応じて近況と共に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士は毎朝バイタルサインのチェック、その他の状態観察を行い、異常があった際は職場内看護師に申し送る。看護師は、その報告内容に応じて処置をしたり、必要と判断した時には、主治医へ相談・指示受けを行い、健康状態安定に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、施設より搬送し本人やご家族が安心されるように情報を提供する。また、面会を行い利用者の不安をできるだけ最小限になるよう心掛けている。医療機関よりの情報を得て、ご家族とも相談を行い、お互いの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りに対しては、医療を必要とする場合は難しいが、老衰の場合は受け入れが可能であり、本人の意思やご家族の考えを充分に検討し支援を行っていく方針がある。本人　ご家族の思いに応える終末期を支援する為に「緊急時及び重度化時の対応における、事前意志確認書」を作成しご家族の考えを書面で残している。	入居時にホームの方針を説明し、事前意思確認書を受けている。この確認書は状態に応じて取りなおしを行い、その時々で変化する家族の思いに沿うようにしている。臥床中心になられた方には、本体の栄養課に依頼し、嚥下食が提供されている。重度化に関しては全体研修により共有を図る他、看護師の資格を有した職員の入職により、指導看護師の資格取得も行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル、緊急連絡網を作成し全職員への周知徹底を図っている。緊急時の対応については、母体である特養のスタッフの協力も受ける体制が整っている。急変時の対応については、日々のケアの中でベテラン介護士の指導を受ける他、今年11月には喀痰吸引等研修の受講予定である。年1回の救急蘇生法の講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	母体が福祉避難所でもあることから、真空の備蓄食の準備があったり非常食としてインスタント食品を利用者　スタッフとも準備している。10月は昼間想定火災非難訓練を実施し3月には夜間想定火災非難訓練を予定している。毎月16日を災害の日として、昼食時に利用者スタッフ共、非常食を食べながら災害が起こった時の対策を考えながら、食事をとり確認している。また、部屋の入口には、災害等で避難した際、部屋に誰もいない事を確認した印として手動のライトを設置している。	年2回昼・夜を想定した避難訓練を実施している。夜勤者の緊急時対応については、マニュアルが事務所内の目に付くところに掲示している。また、毎月16日を災害の日とし、入居者と共に非常食を摂ることで、熊本地震を含め災害を風化させず、日ごろが重要であることを心新たにしている。法人は福祉避難所となっており、災害への意識も高く、連携を図りながら安全管理に努めており、備蓄も敷地内に確保している。	立地的には近隣地域と離れた場所にあるが、地元消防団の年末夜警では法人施設まで車両による見回りが行われている。今後も火災・自然災害で昼夜を問わず、入居者の避難について取り組みを検討されることが期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活のケアの中で個人のプライバシーを尊重する言葉かけを行っているが、耳の遠い利用者に声が大きくなっている。スタッフ同士で注意しあいながら一人ひとりを尊重できるように心がけている。	入居者の支援にあたっては、尊厳やプライバシーに配慮することを職員間で共有しているが、言葉使いや難聴の方への声かけが大きくなっているなど、反省点も上がっている。職員の守秘義務については入職時や会議の中でも周知徹底されている。食事中入居者が「美味しかね～、ありがとね～！」と発せられた一言は、支援する側にも励みであり印象に残る光景であった。	職員も入居者のお陰で元気が出ることに感謝を語っている。今後も全職員が言葉使い等を振り返り、人生の先輩である入居者の支援に努めていかれることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや自己決定ができ易いようにわかり易く説明しているが、理解力の低下がある利用者に対しても思いが出やすいように言葉かけを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を把握して、できるだけその方の希望にそえるように支援している。（台所の手伝い、プランターの手入れ、母体への散歩など）		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面整容を行い、一緒に身だしなみを整えている。外出や行事の時は、洋服もおしゃれをして頂いている。今年は中止になった敬老式典で着る予定だった洋服で正装して記念写真撮影を行った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握しており、日々の料理の材料に取り入れている。また、野菜の皮むきやお茶碗拭き、お盆拭きをお願いしている。	入居者の希望を聞きとり、冷蔵庫の中を見て献立を立て、菜園の野菜も活用していることで、下ごしらえの手伝いや食事中の会話も繋げている。また、法人栄養士にカロリー計算を依頼することもあり、栄養バランスと美味しさの両面から食事支援が行われている。はやとうりと芋がらのみそ炒めや、赤魚の煮つけ、カボチャの粉かきなど、入居者にとって馴染みのメニューは特に好評のようである。職員も見守りをしながら一緒に摂っており、検食簿には、味や量、入居者の一言など次回に活かせるようなコメントが残されている。	旬の食材を活用しながら入居者に喜んでもらえる食事支援が展開されている。家族にとって食事は関心の高い一つでもあり、今後は食形態も含め、食事の取組を家族へ伝えることで更に安心に繋げていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養については、献立のバランスを考えながら利用者の希望を取り入れている。カロリー計算は、年1回母体の管理栄養士にお願いして振り返っている。嚥下障害の方の形態にも対応している。（トロミクリア、アイソトニックゼリー使用）		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に歌を歌ったりして唾液の分泌を良くし、食事がスムーズに摂れるようにしている。また、食後の口腔ケアの中で異常の早期発見に努めている。異常があれば、家族に相談し、受診または往診をお願いしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握している。トイレでの自立に向けて、出来るだけ本人の機能を引き出すよう声掛けを行っている。（排泄用パットも個々にあった物を準備している）	職員は一人ひとりの排泄パターンを共有し、自立の方の継続や声をかけたり、トイレへ誘導している。日中はリハビリを兼ねて距離のあるトイレを使用する方や、排泄用品もリハビリパンツや布パンツにパットの併用など個々に応じて検討している。入居後夜間帯もトイレへ誘導したことが、失敗もない等自立へ改善されたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	料理の中に食物繊維の多い食材を取り入れるようにしている。（さつま芋、牛蒡、麦、青汁、オリゴ糖など）また、乳製品や果物の提供も心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は、毎日実施し、入浴予定者は入浴前にバイタルチェックを行う。本人の希望があれば、毎日でも入浴は可能。1対1の入浴でゆっくりと実施している。入浴剤の使用や季節に応じた菖蒲湯や柚子湯の提供にも心がけている。	入浴時にはバイタルチェックにより入浴の可否を見極め、本人の希望も確認しながら支援している。週2～3回の入浴や心身に応じ清拭と入浴の回数を検討している。寒さから今日は入らないと言われる方にも、時間を置き誘い直したり、無理強いせず翌日に変更するなど個々に応じて支援している。保湿効果のある入浴剤を数種用意している他、季節湯の柚子は近隣の方から差し入れもあり、冬至に限らず何回も楽しんでいる。	介護度も高くなっている現状から、リフト浴も検討されている。今後も入居者の安全で楽しい入浴支援への取組に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	地中熱の利用により居室も自然な空調の為に、昼夜過ごし易い環境である。本人が休みたい時は、いつでも休む事ができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容については、全スタッフが把握しており、臨時薬がある場合でも個々の検温版や申し送り簿に記載し、間違いが起こらないようにしている。また、臨時薬を投与した後は、病状の変化等にも全スタッフが確認に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技、思いを日々の生活に活かせるように支援している。テーブル拭きや洗濯物たたみをお手伝いされている。また、朝食前の神棚へのお参りを日課にされている。9時過ぎには、30分程の体操をされる事も日課になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつでも本人の要望にそえるようにしているが、日々の外出は短時間が主である。(個別のドライブなど)また、外出する際は、ご家族やボランティアの協力を得て行っている。	ホーム周辺は野山や畑など季節を間の当たりに感じることができ、敷地内の散歩を楽しむ他、母体特養施設での催し物には努めて参加している。また、個々の状態に応じて菊人形見学や紅葉狩りドライブなどに出かけている。地域の収穫祭には毎年参加しており、退職した職員もボランティアとして参加し、入居者のサポートを行っている	法人によるアンケートの中にも、戸外活動を色々取り入れて欲しい要望が出されている。車椅子利用者もおられるが、外食など家族の協力も得られており、今後も個別支援の充実など 個々に応じた外出に取り組まれていることに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	遠方のご家族が多い為、殆どの利用者より現金を預かっているが、利用者が重度化され、一緒に買い物に行くのが困難になっている。日用品の買い物等は、スタッフが代わりに買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、ご家族に健康状態や生活の状況及びお知らせを書いて送付している。電話は、希望に応じて取り次ぎを行う体制はできているが、利用者からの要望は、殆どない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関からホールの空間にお花を飾ったり、植物を置いて利用者の精神面の安定に心がけている。また、馴染みの音楽や録画により心豊かに過ごして頂けるよう工夫している。	ホーム内には外出時など日常の光景の写真や季節の絵柄の手ぬぐいをのれんにするなど、職員の工夫やアイディアが活かされている。日中はリビングでテレビ視聴や音楽を流したり、得意の歌を披露される方など和やかな時間が持たれている。また、管理者は言葉使いや声のトーン、対応など職員自身が大切な環境であることを指導している。	経年と共に物品や掲示物も増えてくることから、今後も定期的な見直しの機会を持つことを検討いただきたい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファーや椅子を設置し、いつでも過ごし易い空間を心がけている。また、気の合う利用者同士が思い思いにゆっくりと過ごせる空間を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やご家族との思い出の写真を飾ったり、好きなお花を飾ったりする事により居心地よく過ごせるように心がけている。季節ごとに咲く庭の花を生ける事で我が家にいるような気分を味わって頂けるよう工夫している。	居室内にはホームの庭先などに咲いた季節の花が飾られたり、持ち込まれた家族の写真の掲示など、安心して過ごせる空間である。衣類は設置されている収納タンスにより、スッキリ整頓され、衣替え時期には電話や手紙で持ち帰りや確認を依頼したり、必要な物品を伝えるなど、家族と一緒に居心地の良い居室環境に努めている。また、居室での生活が中心になられた方にも、扉を開け歌声が聞こえるようにしたり、声かけや手を振るなど、一つ屋根の下の家族の光景が見られた。	掃除や換気など日々細やかに取り組んでいる。今後もその方の部屋として、安全面や整頓など過ごしやすい居室環境に努めていかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の名札や目印の人形、トイレなどに表札を掛けてわかり易い言葉で表示している。また、ホールや廊下には、危険になるような備品は置かないようにしてリスクの回避をしている。		